

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 中河原 絵 里

単元 「サブストーリーを描こう！～人物の関係に目を付けて～」

本単元の目標

- ◎ 人物像や人物の相互関係、表現の効果を基に、物語の空所の展開を想像し、物語で読者に感動が生み出される論理を捉えることができる。

本単元の考え方

- 本単元では、構成や展開、表現の効果を関連付けて読み手に感動が生み出されるための論理を捉えることをねらいとしている。具体的には、①読み手に想像を促す表現の効果を理解し、人物像や相互関係を基に物語の空所部分の展開を想像すること、②自分と友達との人物描写や情景描写を観点にサブストーリーの展開や表現のよさを共有すること、③物語を読む意味を見いだすことなどである。本単元では、視点を変えて物語の空所部分を想像しサブストーリーとして書きまとめることを通して、読み手が感動を生み出す論理として、人物相互の関係や人物像、視点の関わりに気付く、感動を享受する力を育む上で価値がある。
- 本学級の子供たちは、11月単元で「詩の世界を楽しもう」の学習において、詩の鑑賞と創作を繰り返す中で、作品のメッセージを想起する表現の効果を捉えることができた。一方で、子供たちは、物語において、人物像や人物の相互関係から感動やメッセージを生み出す論理を俯瞰的に捉えて読むことまではできていない。そこで、視点を変えて物語を書くことを通して、人物像や相互関係を問い直し、全体像を鮮明にしている中で、どのような展開や表現がこのメッセージを生み出したのか、その論理を明らかにしていきたい。このことは、物語の特徴について理解を深め、物語との関わり方や読む価値を見いだす上で価値がある。
- 本単元の導入段階では、まず、複数の人物の視点で描かれた物語を提示し、視点を変換させて物語を読むよさについて話し合う。そうすることで、「どの物語でもサブストーリーを創り出すことはできるのか。」という問いを基に、本単元のめあてを設定する。次に展開段階では、サブストーリーを書くのに必要な登場人物の人物像や人物同士の相互関係、物語から受け取ったメッセージについて、同じ作品を選んだ友達と話し合う。最後に終末段階では、全体で物語のサブストーリーを共有、評価する場を設定することで、感動を生み出す論理を明らかにすることができると思う。

学びの文脈

《主に学問的・文化的側面》

物語で捉えた人物像や相互関係を基に、視点を変えた物語を書く活動を通して、感動やメッセージを生み出す物語の構造を捉えるという文脈をつくっていく。

単元計画（全6時間）

単元における活動・内容・手立て							
1	視点を変えて読むおもしろさについて話し合い、サブストーリーを書くための単元計画を立てる。1 ○ 視点を変えて物語を読むことで、メインストーリーでは捉えにくい人物の相互関係や人物像に気付くこと ※ 複数（他）の視点で描かれた物語の提示						
2	感動やメッセージを生み出す物語の構成や展開、表現について話し合い、サブストーリーを書く。4 (1) 原作の物語の空所部分における中心人物の行動や心情を話し合い、書く場面を決定する。① ○ 空所場面の人物の行動や心情を物語全体に描かれた人物像や相互関係などから想像すること ※ これまで既習の物語を提示し、設定や構成、表現について共通点や独自性を話し合う場を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読書に感動を生み出す仕組みは何だろう。どのような条件があるのだろうか。</div> (2) 原作物語の設定や展開の仕方を基に、変える部分と変えない部分を話し合い、サブストーリーを書く。③本時3/3 ○ サブストーリーを書く際に、感動を生み出す論理を捉えること ※ 書くときの条件を共有し、その観点に沿って自他の文章を評価することができるようにする。 【表 サブストーリーを書く際の感動を生み出す論理】						
	<table border="1" style="width: 100%;"><thead><tr><th>【人物描写】</th><th>【情景描写】</th></tr></thead><tbody><tr><td>・ 行動描写 ・ 人物の状況 ・ 会話</td><td>・ 人物像 ・ 心情の変化 ・ 相互関係</td></tr><tr><td></td><td>・ オノマトペ ・ 比喩表現 ・ 色彩表現</td></tr></tbody></table>	【人物描写】	【情景描写】	・ 行動描写 ・ 人物の状況 ・ 会話	・ 人物像 ・ 心情の変化 ・ 相互関係		・ オノマトペ ・ 比喩表現 ・ 色彩表現
【人物描写】	【情景描写】						
・ 行動描写 ・ 人物の状況 ・ 会話	・ 人物像 ・ 心情の変化 ・ 相互関係						
	・ オノマトペ ・ 比喩表現 ・ 色彩表現						
3	完成したサブストーリーを読み合い、自分や友達のつくった物語のよさについて話し合う。1 ○ 視点を変えた物語を書くことによって、感動を生み出す構成や展開、表現の効果に気付くこと ※ 完成した物語を共有・評価する場の設定						

本単元における言葉による見方・考え方

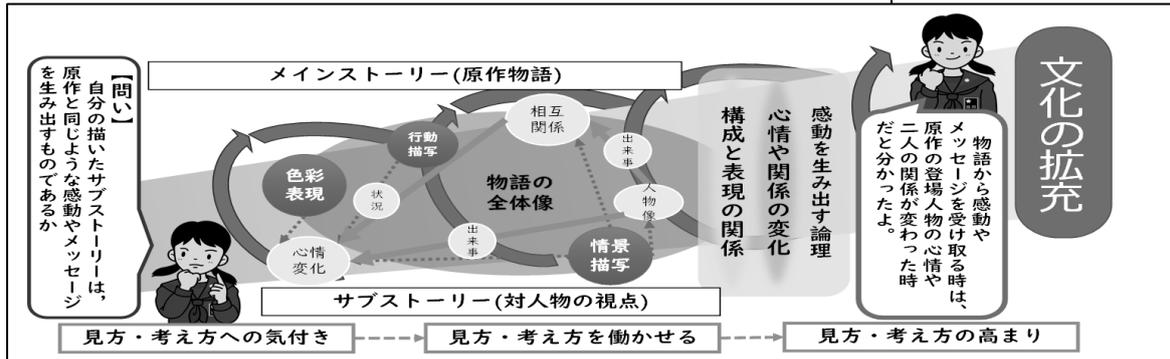
人物の行動や心情、人物像等とそれを形象する言葉(描写)、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して比較、分類、評価等を行いながら、捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

本時の目標

- 「自分の描いたサブストーリーは、原作で生まれる感動やメッセージを生み出すものであるか」について人物像や人物相互関係、表現の効果を基に見直し、感動を生み出す論理を見いだすことができる。

本時の学習過程 (5 / 6 時)

学習活動・内容・予想される子供の反応	手立て
<p>1 「自分の描いたサブストーリーは、原作で生まれる感動やメッセージを生み出すものであるか」という本時の問いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の描いたサブストーリーについて、人物像や相互関係など、原作物語の全体像と比較しながら見直すという見直しをもつこと ・ 私は、他のグループの友達に読んでもらい、自分のサブストーリーを読むことで、原作の感動がより一層強くなるのかを聞いてみたい。 <p>自分のサブストーリーは、読む人に感動やメッセージを伝えるものになっているのかを話し合い、下書きを完成させよう。</p>	<p>※ 人物像や人物相互の関係、表現の効果など、物語の全体像を見直すという見直しをもつことができるように、教師の作成したサブストーリーを提示し、助言をする場を設定する。</p>
<p>2 異なるグループの友達と作品を読み合い、評価を基にサブストーリーを書きまとめる。</p> <p>(1) お互いのサブストーリーを読んで、観点を基に評価し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原作物語の空所における人物の行動や心情についての描写について、人物像や人物同士の相互関係と比較し、問い直すこと ・ Aさんの作品では、「大造じいさんとガン」の物語に描かれていない冬の場面の行動描写に大造じいさんの優しい人物像が暗示されていて感動した。 <p>(2) グループ交流を受けて、物語の修正を行った箇所と、その理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原作物語とサブストーリーの比較を行いながら、原作物語の全体像を見直し、構成と表現の点から感動を生み出す論理を捉えること ・ 「大造じいさんとガン」から生まれる感動は、大造じいさんの心情の変化にあると助言をもらったので、それをもっと際立たせるために、残雪とハヤブサの戦う場面を回想するような描写を入れるとよいと思い、付け加えました。 	<p>※ 観点を基に、子供たちが自他の作品を評価し合えるように、各グループに評価シートを提示する。</p> <p>※ 物語の構造を共有することができるように、前時まで捉えた構造を可視化する。</p>



- 3 本時の学習を振り返って、読み手に感動やメッセージが伝わるための物語の特徴について考えたことや分かったことを話し合う。
- 各グループの作品の修正の観点を基に、サブストーリーを書くことによって捉えた物語特有の感動を生み出す論理や空所場面がある効果に気付くこと
 - ・ どの物語でも、サブストーリーを書くときには、原作物語で登場人物同士の関係が大きく変わった場面の描写を取り入れると、感動やメッセージを生み出すことにつながるということが分かったよ。

※ 物語特有の感動を生み出す論理を捉えることができるように、既習物語を提示し文章構造の共通点を問う。

【本時求める子供の姿】

- ☆ 物語に共通している感動を生み出す仕組みは、登場人物の心情の変化、人物の関係、情景描写などの暗示的な表現の中にあるということが分かったよ。